



産島ブランドで 地域を活性化したい



松本 泰一郎さん
（河浦町宮野河内）

河浦町宮野河内地区の上平港から沖合1.3キロメートルにある無人島は、神宮皇后が皇子を出産したという言い伝えから「産島」と呼ばれている。この島にはキャンプ場が整備されており、受け付け業務を担当しているのが松本泰一郎さんだ。

高校卒業後に天草を離れていた松本さんは11年前に帰郷。産島八幡宮の例大祭で獅子舞を踊るなど地域行事に参加してきた。産島キャンプ場を管理する宮野河内上平区から受け付けを依頼されたのは5年前。自営業であり、港の近くに職場があることから、柔軟に対応できると思い引き受けた。受け付けのほか、船の手配や要望があればラントラン、発電機などの準備も行っている。

同キャンプ場は県外からの利用者が多く、100人以上が参加する音楽イベントや年越しキャンプなどシーズンを問わずに利用されている。予想以上の多さに驚きつつも、慣れ親しんだ島の人気をうれしく思った。

島には戸建てや長屋タイプのバンガローのほか、神社の境内を利用したテントサイトがあるが、狭いため新たなスペースを造りたいと思っていた松本さん。昨年の夏ごろ、当時の振興会長から「地区の予算を未来ある産島にしたい」と話があり、船の離着岸用の



同キャンプ場のインスタグラム



1 島内にある産島八幡宮。例大祭は市の無形民俗文化財に指定されている。
2 造成中のキャンプサイト

棧橋を造る案が出たが、多くの人にキャンプを楽しんでもらえるようにとテントサイトを造成することにした。工事用の重機を船で運ぶなど課題もあったが一つずつ解決し、今年の6月に着工。早期完成を目指して進めている。

「イルカウォッチングや崎津集落のように産島を天草の定番スポットにしたい」と話す松本さん。同キャンプ場のインスタグラムを開設して魅力を発信したり、産島をテーマにしたプロジェクトに参加している。産島を有名にすることで、車エビやデコボン、遊漁船など同地区の産業を知ってもらいきっかけをつくりたいと思っている。

神秘的な島「産島」が新たな天草ブランドの一つになるのかもしれない。

県指定無形民俗文化財
Vol. 008 栖本太鼓踊り（栖本町湯船原）昭和55年3月3日指定



300年以上にわたって栖本諏訪神社に奉納されている太鼓踊りは、栖本町郷土芸能保存会の指導の下、地元の人たちによって引き継がれ、毎年10月第3土・日曜日に河内神社、11月第2土・日曜日に栖本諏訪神社の例大祭で披露されています。

島原・天草一揆の直後に赴任してきた代官「鈴木重成」は、治世と民心の安定を図るために、正保2（1645）年に栖本諏訪神社を建立。現在の栖本太鼓踊りは文化3（1806）年に太鼓打ちの名人「辰四郎」が創作したものが基になっているといわれています。笛や太鼓を使ったダイナミックな踊りは迫力満点。指定を受けているのは太鼓踊りだけです、町を練り歩く神幸行列も圧巻です。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、神幸行列を含めた栖本諏訪神社の太鼓踊りは、ぜひ見てほしい文化財です。



exploration of history

天草 文化財 探訪

文化課 32-6784

地域の歴史を知る上で欠かせないのが「文化財」。天草市には206もの指定・登録文化財があります。今回は、栖本町の無形民俗文化財をご紹介します！

天草 見どころ図鑑



御用井戸
（牛深町真浦区）

「御番所用水」と刻まれている▶



★ここに注目

狭い路地「せどわ」を通った先にあり、1回で井戸までたどり着けるかな。